

クニツミ&ロベルト・シューマン グラノーフのフォルテピアノとともに 「室内楽演奏会3」で使用された歴史的ピアノについて

小岩 信治

文化政策学部芸術文化学科

平野 昭

文化政策学部芸術文化学科

中山 真

調律師

「静岡文化芸術大学の室内楽演奏会3」で用いられた、浜松市楽器博物館所蔵の歴史的ピアノ（K・〇〇一〇）は、一八一九〜二〇年にヴィーンのコンラート・グラノーフが制作したものとされてきた。しかし、今回の演奏およびその録音の収録にあたって行われた現況調査からは、グラノーフ作であることが確かめられる他の楽器の特徴を、この楽器が必ずしも共有しているとは言えないことが明らかになった。本楽器の場合、グラノーフ作の根拠となり得るのは、事実上鍵盤上部のネームプレートのみである。もっとも、この楽器を直ちに偽作と断じることは早急だと考えられる。今後は、グラノーフ作として伝わってきたものの彼自身の参与が不確定な楽器として、「伝グラノーフ」と表示することが適切であろう。

浜松市楽器博物館、第一生命ホール、静岡文化芸術大学が連携して二〇〇六（平成一八）年から行われた「静岡文化芸術大学の室内楽演奏会」は、第三年度の「クララ&ロベルト・シューマン 愛、輝きと優しさ グラノーフのフォルテピアノとともに」をもって、予定された三年間の演奏会を終了した。このコンサートではこれまで同様、浜松市楽器博物館が所蔵する歴史的ピアノ（フォルテピアノ）を使用した。今回の楽器は、一九世紀にヴィーンで活躍したピアノ製作者コンラート・グラノーフ（一七八二〜一八五二）作とされ、これまで一八一九〜二〇年頃のものと考えられてきた。本稿は、浜松と東京で行われた演奏会の概要とともに、今回の演奏およびその録音の収録にあたって行われた使用楽器の現況調査の結果を報告するものである。この調査には演奏会監修者とともに、このシリーズの演奏会でピアノの調整・調律を担当した中山真があたった。

1 浜松市楽器博物館所蔵の

歴史的ピアノ（K・〇〇一〇）現況調査報告

1-1 調査の方法

世界に現存するグラノーフ作ピアノの最も包括的な調査書と考えられるワイズ Deborah Wythe 著「Conrad Graf (1782-1851), Imperial Court fortepiano maker in Vienna (Volumes I and II)」(一九九〇)と照合しながら、本楽器のオリジナル性と製作年代について検討した。

1-2 オリジナル性

右記文献に挙げられている、グラノーフ作であることが確かめられる現存楽器の仕様と、本楽器のそれとを照合して、本楽器のオリジナル性について検討した。

1・2・1 製作者を示すマーク、ラベル等

本楽器にはグラノーフが製作したことを証明する明確なマークが存在しない。

① ネームプレートには制作番号 (Opus) が無い。

② 響板アッセンブリは全て修復されており、オリジナルに貼られているようなラベルが存在しない。

③ 鍵盤アッセンブリにもオリジナル性を示すマーク、文字などが存在しない。

1・2・2 ベントサイド・チークの形状

本楽器のようなダブルベントサイド様式のオリジナルの現存例はほかに存在しない。

1・2・3 駒の分割の有無

本楽器の音域(C♯₂)を備えた楽器で本楽器の様に駒が分割されていない例は、ほかに存在しない。

以上の点から、本楽器が確実にグラーフ作であることは断定できない。なお、現在の本楽器の響板アッセンブリー、配弦仕様、ペダル機構及び鍵盤アクションアッセンブリーなどには明らかな修復、改造の跡が見受けられる。

先述のワイズの文献に掲載された現存ピアノのデータによれば、グラーフの主な製作活動期間は一八一年頃から一八四一年頃まで約三〇年間にわたり、その間、時代が下るに従い、音域が広がり、張力を高くし、ハンマーを大きくすることにより音量が増大する傾向が見られる。

本楽器が、前の所有者であるイェルク・デムスの紹介するとおり一八一九年頃に製作されたとすれば、改造・修復により、現状はどの時代のグラーフを反映する楽器なのかについて説明が期待され、本節はそのような期待に答える意図を持ってワイズの文献のデータと本楽器の測定データを比較検討するものである。

1・3 配弦仕様の調査・比較

本楽器の配弦現状の測定データとワイズの文献にまとめられたデータの比較を行った。グラーフ作と確かめられる楽器のデータは、彼のピアノの様式年代区分三期からそれぞれ代表的なものと思われるもの、すなわち

- 制作番号1068 (一八二四～二六、修復歴有り)
- 制作番号1435 (一八二六～三五)

制作番号1977 (一八三五～四一)

のデータを採用し、本楽器と比較した(図表1 配弦仕様データ および 図表2 比較グラフ を参照のこと)。

なお張力は、全ての楽器のピッチを楽器博物館の楽器の現状ピッチと同じB₁四二〇ヘルツとして、それぞれの楽器の弦の長さ及び材質から算出した値で、その値の各楽器間の相对比较は、音量の相对比较にほぼ対応する。(なお制作番号1068、1435、1977は、本楽器と異なり分割された駒の仕様になっているため、鍵盤番号25(C)より低音側を厳密に比較することは困難である。)

比較グラフ(図表2)から、次のことが読みとられる。

- 1・3・1 時代が下るに従って張力が増大している。
 - 1・3・2 本楽器は制作番号1068(一八二四～二六年作)と制作番号1435(一八二六から三五年作)の間に張力が設定されている。
- 以上より本楽器は、デムスが伝える製作年(一八一九年頃)より後の時期におけるグラーフの特徴を持つ楽器と考えられる。

1・4 ハンマーの調査

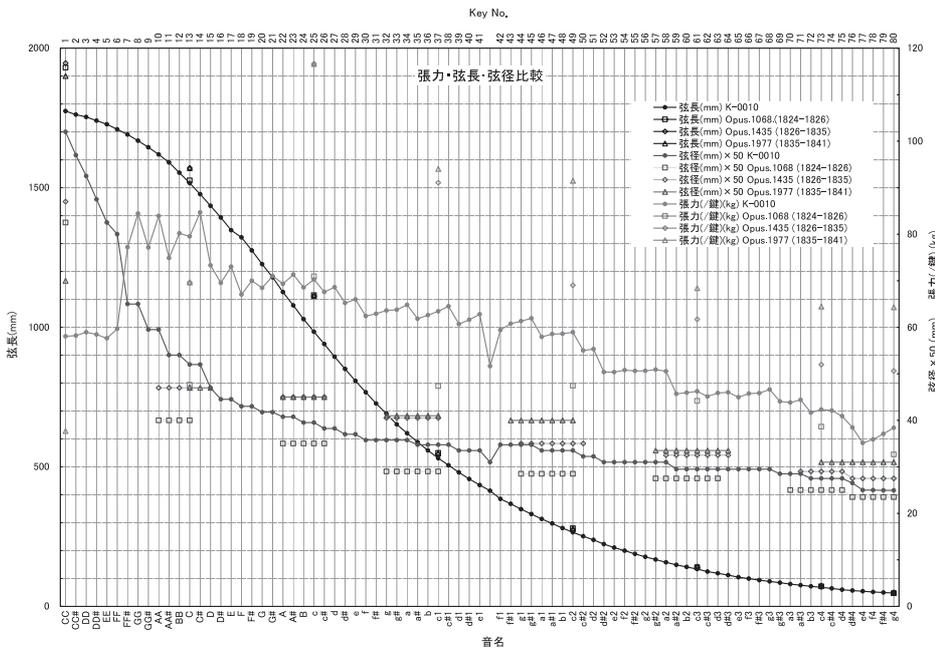
ワイズの文献に紹介されている数値データと本楽器の測定データとの比較を行った結果、本楽器のハンマーについては下記のことを考えられる(図表3 ハンマーのデータ を参照のこと)。

- 1・4・1 ハンマーシャンク
- ① 本楽器のハンマーシャンクは、オリジナルとはいえない。
- ② 本楽器のハンマーシャンクは特定の年代のグラーフ・ピアノを意識して復元されたとはいえない。
- 1・4・2 ハンマーヘッドの長さ

張力・弦長・弦径比較 (図表1)

K.No	音名	K-0010,Pianoforte,Conrad Graf,Vienna,ca1819 measured by M.Nakayama,2008				Opus,1068 (1824/10/-19-1826/ 7/) from the document by D.Wythe,1990				Opus,1435 (1826/ 7/ -1835/12/) from the document by D.Wythe,1990				Opus,1977 (1835/12/ -1841/ /) from the document by D.Wythe,1990											
		本数	S.No	弦長 (mm)	弦径 (mm)	材質	張力kg/鍵 a1=420Hz	本数	S.No	弦長 (mm)	弦径 (mm)	材質	張力kg/鍵 a1=420Hz	本数	S.No	弦長 (mm)	弦径 (mm)	材質	張力kg/鍵 a1=420Hz	本数	S.No	弦長 (mm)	弦径 (mm)	材質	張力kg/鍵 a1=420Hz
1	CC	2	1	1774.5	2.040	巻線	58.1	2	1	1930.0	1.650	巻線		2	1	1946.0	1.740	巻線		2	1	1900.0	1.400	Yellow	37.7
2	CC#	2	3	1762.0	1.940	巻線	58.2	2	3			巻線		2	3			巻線		2	3			Yellow	
3	DD	2	5	1753.0	1.850	巻線	58.9	2	5			巻線		2	5			巻線		2	5			巻線	
4	DD#	2	7	1740.0	1.750	巻線	58.5	2	7			巻線		2	7			巻線		2	7			巻線	
5	EE	2	9	1727.0	1.650	巻線	57.6	2	9			巻線		2	9			巻線		2	9			巻線	
6	FF	2	11	1709.0	1.600	巻線	59.7	3	12			Yellow		3	12			Yellow		3	12			Yellow	
7	FF#	3	14	1690.5	1.300	Yellow	77.2	3	15			Yellow		3	15			Yellow		3	15			Yellow	
8	GG	3	17	1668.5	1.300	Yellow	84.4	3	18			Yellow		3	18			Yellow		3	18			Yellow	
9	GG#	3	20	1644.5	1.190	Yellow	77.1	3	21			Yellow		3	21			Yellow		3	21			Yellow	
10	AA	3	23	1619.0	1.190	Yellow	83.9	3	24		0.800	Yellow		3	24		0.940	Yellow		3	24			Yellow	
11	AA#	3	26	1590.5	1.080	Yellow	74.9	3	27		0.800	Yellow		3	27		0.940	Yellow		3	27			Yellow	
12	BB	3	29	1553.5	1.080	Yellow	80.2	3	30		0.800	Yellow		3	30		0.940	Yellow		3	30			Yellow	
13	C	3	32	1516.5	1.040	Yellow	79.5	3	33	1526.0	0.800	Yellow	47.7	3	33	1570.0	0.940	Yellow	69.6	3	33	1570.0	0.940	Yellow	69.6
14	C#	3	35	1477.0	1.040	Yellow	84.7	3	36			Yellow		3	36			Yellow		3	36		0.940	Yellow	
15	D	3	38	1435.0	0.940	Yellow	73.3	3	39			Yellow		3	39			Yellow		3	39		0.940	Yellow	
16	D#	3	41	1393.5	0.890	Yellow	69.6	3	42			Yellow		3	42			Yellow		3	42			Yellow	
17	E	3	44	1347.5	0.890	Yellow	73.0	3	45			Yellow		3	45			Yellow		3	45			Yellow	
18	F	3	47	1322.0	0.860	Iron	67.0	3	48			Yellow		3	48			Yellow		3	48			Yellow	
19	F#	3	50	1275.0	0.860	Iron	70.0	3	51			Yellow		3	51			Yellow		3	51			Yellow	
20	G	3	53	1226.0	0.835	Iron	68.5	3	54			Yellow		3	54			Yellow		3	54			Yellow	
21	G#	3	56	1178.5	0.835	Iron	71.0	3	57			Yellow		3	57			Yellow		3	57			Yellow	
22	A	3	59	1126.0	0.815	Iron	69.3	3	60		0.700	Iron		3	60		0.900	Iron		3	60		0.900	Iron	
23	A#	3	62	1078.0	0.815	Iron	71.3	3	63		0.700	Iron		3	63		0.900	Iron		3	63		0.900	Iron	
24	B	3	65	1029.0	0.790	Iron	68.5	3	66		0.700	Iron		3	66		0.900	Iron		3	66		0.900	Iron	
25	C	3	68	983.5	0.790	Iron	70.3	3	69	1115.0	0.700	Iron	70.9	3	69	1112.0	0.900	Iron	116.6	3	69	1112.0	0.900	Iron	116.6
26	C#	3	71	940.0	0.790	Iron	67.6	3	72		0.700	Iron		3	72		0.900	Iron		3	72		0.900	Iron	
27	D	3	74	894.0	0.765	Iron	68.6	3	75			Iron		3	75			Iron		3	75			Iron	
28	D#	3	77	850.5	0.765	Iron	65.2	3	78			Iron		3	78			Iron		3	78			Iron	
29	E	3	80	807.5	0.740	Iron	66.0	3	81			Iron		3	81			Iron		3	81			Iron	
30	F	3	83	767.0	0.740	Iron	62.4	3	84			Iron		3	84			Iron		3	84			Iron	
31	F#	3	86	727.0	0.715	Iron	62.9	3	87			Iron		3	87			Iron		3	87			Iron	
32	G	3	89	690.0	0.715	Iron	63.6	3	90		0.580	Iron		3	90		0.810	Iron		3	90		0.820	Iron	
33	G#	3	92	652.0	0.715	Iron	63.8	3	93		0.580	Iron		3	93		0.810	Iron		3	93		0.820	Iron	
34	A	3	95	620.5	0.715	Iron	64.8	3	96		0.580	Iron		3	96		0.810	Iron		3	96		0.820	Iron	
35	A#	3	98	588.5	0.695	Iron	61.8	3	99		0.580	Iron		3	99		0.810	Iron		3	99		0.820	Iron	
36	B	3	101	559.0	0.695	Iron	62.6	3	102		0.580	Iron		3	102		0.810	Iron		3	102		0.820	Iron	
37	C	3	104	531.0	0.695	Iron	63.4	3	105	550.0	0.580	Iron	47.4	3	105	546.0	0.810	Iron	91.1	3	105	548.0	0.820	Iron	94.0
38	C#	3	107	505.5	0.695	Iron	64.5	3	108			Iron		3	108			Iron		3	108			Iron	
39	D	3	110	480.0	0.670	Iron	60.7	3	111			Iron		3	111			Iron		3	111			Iron	
40	D#	3	113	456.5	0.670	Iron	61.6	3	114			Iron		3	114			Iron		3	114			Iron	
41	E	3	116	435.0	0.670	Iron	62.8	3	117			Iron		3	117			Iron		3	117			Iron	
42	F	3	119	414.0	0.620	Iron	51.6	3	120			Iron		3	120			Iron		3	120			Iron	
42	F#	3	122	385.0	0.695	Iron	59.4	3	123			Iron		3	123			Iron		3	123			Iron	
43	F#	3	125	367.5	0.695	Iron	60.8	3	126			Iron		3	126			Iron		3	126		0.800	Iron	
44	G	3	128	348.5	0.695	Iron	61.3	3	129		0.570	Iron		3	129		0.700	Iron		3	129		0.800	Iron	
45	G#	3	131	330.5	0.695	Iron	61.9	3	132		0.570	Iron		3	132		0.700	Iron		3	132		0.800	Iron	
46	A	3	134	313.0	0.670	Iron	57.9	3	135		0.570	Iron		3	135		0.700	Iron		3	135		0.800	Iron	
47	A#	3	137	297.0	0.670	Iron	58.5	3	138		0.570	Iron		3	138		0.700	Iron		3	138		0.800	Iron	
48	B	3	140	280.5	0.670	Iron	58.6	3	141		0.570	Iron		3	141		0.700	Iron		3	141		0.800	Iron	
49	C	3	143	265.5	0.670	Iron	58.9	3	144	280.0	0.570	Iron	47.4	3	144	275.0	0.700	Iron	69.0	3	144	277.0	0.800	Iron	91.5
50	C#	3	146	251.5	0.645	Iron	55.0	3	147			Iron		3	147		0.700	Iron		3	147			Iron	
51	D	3	149	238.0	0.645	Iron	55.3	3	150			Iron		3	150			Iron		3	150			Iron	
52	D#	3	152	223.0	0.620	Iron	50.4	3	153			Iron		3	153			Iron		3	153			Iron	
53	E	3	155	210.5	0.620	Iron	50.4	3	156			Iron		3	156			Iron		3	156			Iron	
54	F	3	158	199.5	0.620	Iron	50.8	3	159			Iron		3	159			Iron		3	159			Iron	
55	F#	3	161	188.0	0.620	Iron	50.6	3	162			Iron		3	162			Iron		3	162			Iron	
56	G	3	164	177.5	0.620	Iron	50.6	3	165			Iron		3	165			Iron		3	165			Iron	
57	G#	3	167	168.0	0.620	Iron	50.9	3	168		0.550	Iron		3	168			Iron		3	168		0.670	Iron	
58	A	3	170	158.0	0.620	Iron	50.6	3	171		0.550	Iron		3	171		0.650	Iron		3	171		0.670	Iron	
59	A#	3	173	149.0	0.590	Iron	45.7	3	174		0.550	Iron		3	174		0.650	Iron		3	174		0.670	Iron	
60	B	3	176	141.0	0.590	Iron	45.9	3	177		0.550	Iron		3	177		0.650	Iron		3	177		0.670	Iron	
61	C	3	179	133.5	0.590	Iron	46.2	3	180	140.0	0.550	Iron	44.2	3	180	140.0	0.650	Iron	61.7	3	180	143.0	0.670	Iron	68.4
62	C#	3	182	124.5	0.590	Iron	45.1	3	183		0.550	Iron		3	183		0.650	Iron		3	183		0.670	Iron	
63	D	3	185	118.5	0.590	Iron	45.9	3	186		0.550	Iron		3	186		0.650	Iron		3	186		0.670	Iron	
64	D#	3	188	112.0	0.590	Iron	46.0	3	189			Iron		3	189		0.650	Iron		3	189		0.670	Iron	
65	E	3	191	104.5	0.590	Iron	45.0	3	192			Iron		3	192			Iron		3	192			Iron	
66	F	3	194	99.5	0.590	Iron	45.8	3	195			Iron		3	195			Iron		3	195			Iron	
67	F#	3	197	94.0	0.590	Iron	45.8	3	198			Iron		3	198			Iron		3	198			Iron	
68	G	3	200	89.5	0.590	Iron	46.6	3	201																

(図表 2)



- ① 本楽器のハンマーヘッド (core) の長さは現存するグラフォのものより平均的にやや短い。
 - ② 本楽器のハンマースキンは材質がばらついている。従ってハンマーヘッドがオリジナルの可能性は低いと判断される。
- 1・4・3 ハンマーヘッドの大きさ
 ワイスの文献の二〇ページに
- 一八一〇〜二四年製作 制作番号184、365、423、693
 - 一八二四〜二六年製作 制作番号1018
 - 一八二六〜三五年製作 制作番号1245、1435、1810
 - 一八三五〜四一年製作 制作番号2420

の計九台の、のハンマーヘッドの二分の一写真が紹介されており、稜線がはっきりしないために本楽器のハンマーヘッドとの正確な比較は困難であるものの、本楽器のハンマーヘッドは一八一〇〜二四年製作の四台のものより大きく、二四〜二六年製作のもの及び二六〜三五年製の二台（1435と1810）や一八三五〜四一年製作のものに近い。

従って本楽器のハンマーヘッドは、一八二四年以降のグラフ・ピアノのものに近い大きさであり、それ以前のグラフのハンマーヘッドとしては、本楽器のものはやや大きいと言える。

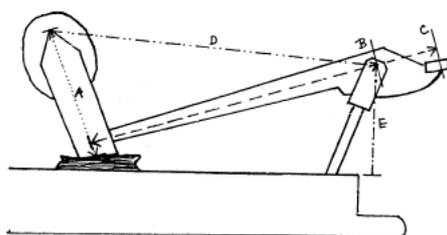
1・5 調査報告の結語

グラフ作の根拠となりうるものは、ネームプレートの "Conrad GRAF in Wien" と古記載のみであり、右記の諸点にもかかわらずグラフ作と断じるための根拠としては充分でない。

もっとも、この楽器を直ちに偽作と断じることは早急だと考えられ

(図表 3)

Hammer Statistics in centimeters (lowest, c1, and highest hammers)



Opus	Date	range	Hammer Shanks									Hammer Heads		
			total length (C)			length to axle (B)			ratio total/axle (B/C)			hammer core height (A)		
			FF/CC	c1	f4/g4	FF/CC	c1	f4/g4	FF/CC	c1	f4/g4	FF/CC	c1	f4/g4
K-0010	Graf, Ca1819?	CC-g4	10.0	10.0	9.8	7.9	7.9	7.8	0.790	0.790	0.796	4.1	4.1	4.3
184	1811-1824	FF-f4	12.4	12.0	12.0	10.4	10.0	10.2	0.839	0.833	0.850	4.3	4.2	4.6
365	1811-1824	CC-f4	11.1	10.8	11.4	9.0	8.7	9.2	0.811	0.806	0.807	4.3	4.2	4.3
374	1811-1824	CC-f4	10.3	10.6	10.5	8.2	8.4	8.6	0.796	0.792	0.819	4.3	4.6	4.9
423	1811-1824	CC-f4	11.5	11.5	12.3	9.3	9.4	10.4	0.809	0.817	0.846	4.3	4.7	4.8
693	1811-1824	CC-f4	12.0	11.7	11.4	10.0	9.7	9.6	0.833	0.829	0.842	4.4	4.6	4.6
731	1811-1824	FF-f4	12.1	12.0	11.4	10.0	9.9	9.2	0.826	0.825	0.807	4.5	4.6	4.6
863	1824	CC-f4	11.5	11.7	12.0	9.5	9.5	9.8	0.826	0.812	0.817	4.5	4.8	4.8
904	1824-1826	CC-f4	11.8	11.5	11.9	9.8	9.7	10.0	0.831	0.843	0.840	4.5	4.6	4.5
1018	1824-1826	CC-g4	11.4	11.7	12.0	9.7	9.9	9.9	0.851	0.846	0.825	4.4	4.8	4.8
1041	1824-1826	FF-f4	11.8	12.1	11.5	10.0	9.9	9.6	0.847	0.818	0.835	4.5	4.4	4.7
1065	1824-1826	CC-f4	11.3	11.5	11.6	9.4	9.4	9.7	0.832	0.817	0.836	4.6	4.6	4.6
1068	1824-1826	CC-g4	12.0	11.9	11.7	10.0	9.8	9.4	0.833	0.824	0.803	4.3	4.4	4.8
Bonn	1826	CC-f4	11.6	11.5	12.2	9.5	9.6	10.2	0.819	0.835	0.836	4.5	4.7	4.8
1118	1826-1835	CC-f4	11.3	11.6	11.4	9.3	9.6	9.4	0.823	0.828	0.825	4.3	4.4	4.8
1171	1828?	CC-f4	11.7	11.8	11.5	9.8	9.5	9.8	0.838	0.805	0.852	4.7	4.9	5.0
1232	1826-1835	CC-f4	12.1	11.8	11.4	10.0	9.7	9.3	0.826	0.822	0.816	4.7	4.5	4.7
1245	1826-1835	CC-f4	12.0	11.8	12.1	10.0	10.1	10.1	0.833	0.856	0.835	4.3	4.5	5.0
1349	1826-1835	CC-g4	12.0	12.0	12.4	10.0	10.0	10.1	0.833	0.833	0.815	4.6	4.6	5.0
1401	1826-1835	FF-f4	11.5	11.7	12.0	9.4	9.6	9.8	0.817	0.821	0.817	4.5	4.5	4.6
1435	1826-1835	CC-g4	11.8	11.5	U.S.	9.8	9.8	9.6	0.831	0.852	0.835	4.3	4.5	4.9
1444	1826-1835	CC-g4	11.8	11.6	11.6	9.3	9.9	10.3	0.788	0.853	0.888	4.5	4.3	4.4
1490	1826-1835	CC-g4	12.0	11.6	12.0	10.0	9.6	10.0	0.833	0.830	0.833	4.3	4.6	4.6
1594	1826-1835	CC-g4	12.0	11.8	11.6	9.9	9.7	9.6	0.825	0.822	0.828	4.4	4.4	4.7
1613	1826-1835	CC-g4	11.6	11.4	10.8	9.9	9.6	9.1	0.853	0.842	0.843	4.4	4.5	5.0
1641	1826-1835	CC-g4	11.6	11.6	11.6	9.7	9.8	9.7	0.836	0.845	0.836	4.4	4.5	4.8
1687	1826-1835	CC-g4	11.4	11.5	11.3	9.5	9.7	9.7	0.833	0.843	0.858	4.3	4.3	4.7
1810	1826-1835	CC-g4	11.5	11.5	11.3	0.5	9.5	9.4	0.826	0.826	0.832	4.4	4.5	4.5
l?2?	1826-1835	CC-g4	11.7	11.0	11.2	10.1	9.4	9.5	0.863	0.855	0.848	4.5	4.3	4.5
GM	1826-1835	CC-g4	11.5	11.5	11.5	9.7	10.4	9.7	0.843	0.904	0.843	4.5	4.6	4.6
Spik	1826-1835	CC-g4	11.3	11.2	11.5	9.4	9.3	9.7	0.832	0.830	0.843	4.3	4.4	4.6
1977	1835-1841	CC-g4	12.0	11.8	11.7	10.0	9.6	9.8	0.833	0.814	0.838	4.3	4.5	4.7
2420	1835-1841	CC-g4	11.5	12.0	11.8	9.7	10.0	9.9	0.843	0.833	0.839	4.3	4.5	4.5
2595	1835-1841	CC-g4	11.5	11.7	11.3	9.7	9.8	9.4	0.843	0.838	0.832	4.2	4.7	5.0
2616	c.1839	CC-g4	11.7	11.7	11.5	9.8	9.8	9.5	0.838	0.838	0.826	4.4	4.7	4.5
2627	1835-1841	CC-g4	12.0	12.0	12.0	10.2	10.2	10.2	0.850	0.850	0.850	4.2	4.6	4.6
2710	1839	CC-g4	11.5	11.8	11.8	9.5	9.7	9.6	0.826	0.822	0.814	4.2	4.4	4.8
2772	1835-1841	CC-g4	11.3	11.5	11.4	9.6	9.6	9.5	0.850	0.835	0.833	4.7	4.8	5.0
2787	c.1840	CC-g4	11.8	11.8	11.9	10.0	9.8	10.1	0.847	0.831	0.849	4.7	4.8	5.0
2788	1835-1841	CC-g4		11.7			9.9			0.846			4.7	
	Maximum		12.4	12.1	12.4	10.4	10.4	10.4	0.863	0.904	0.888	4.7	4.9	5.0
	Minimum		10.3	10.6	10.5	8.2	8.4	8.6	0.788	0.792	0.803	4.2	4.2	4.3
	Average		11.6	11.6	11.6	9.7	9.8	9.7	0.832	0.832	0.833	4.3	4.6	4.6

る。まず、グラーフが例外的な作品を残した可能性を排除できない。また、既述のとおり段階的に現状に至った楽器として、音域やペダル数などについて彼の一八三〇年代以降の様式に近いこの楽器に、グラーフ自身が関わった可能性を完全に否定することはできない。従って今後は、グラーフ作として伝わってきたものの彼自身の参与が不確定な楽器として、「伝グラーフ」と表示することが適切と考えられる。

2 演奏会実施報告

「静岡文化芸術大学の室内楽演奏会³」は、浜松市楽器博物館が所蔵する歴史的ピアノを使い、一九世紀序盤のオーケストラ作品の「室内楽版」を含む演目が、この時代の演奏習慣に通じた奏者たち（小倉貴久子ほか）によって演奏されるという点で、前々年および前年の「室内楽演奏会¹」および「同²」を継承するものである。この演奏会の基本的な特色は前々回の報告（『静岡文化芸術大学研究紀要』第七巻）に詳しいので、本節では本年度のシリーズに関して特筆すべき点についてのみ述べる。

「室内楽演奏会³」は全三回のシリーズを総括する内容であった。このシリーズは一九世紀の序盤をテーマにしてきた。それはピアノ協奏曲が今日想像されるような「管弦楽曲」になりきっていない時代、そしてそれが今日「室内楽曲」として理解されるような数人でのアンサンブルとの互換性を保っていた時代であった。今回のシューマン夫妻の作品は、そのような「今日と違う」世界が「今日に近い」ものに切り替わろうとする時期を証している。本演奏会シリーズの演目に照らしれば、この転換期において大きく二つのことが重要である。

第一に「室内楽としてのピアノ協奏曲」が終焉を迎える。ウィークの《ピアノ協奏曲》作品七についてはなおピアノと弦楽五部用楽譜が出版されたが、この作品の創作のプロセスを見守った彼女の未来の夫シューマンは、後に完成させることになる自らのピアノ協奏曲（作品五四）にそのような出版形態を用意しなかった。クララの作品七はまだ「今日とは違う」時代のピアノ協奏曲であるが、ロベルトの作品五四は「管弦楽としてのピアノ協奏曲」である。クララの作品では、豊かな表現力を駆使する数挺の弦楽器に囲まれるだけで存在感が埋没しかねないピアノが、きらびやかな書法で自らをアピールできるように書かれている。

第二に、ピアノと弦楽四部以上を想定した新しい室内楽ジャンルが確立する。シューマンの《ピアノ五重奏曲》は新しい時代を象徴する作品である。ピアノと弦楽四部のための作品はこれが最初というわけではないが、次の世代に与えた影響力を鑑みれば、この作品がこのジャンルの最初のスタンダードであったと言える。ウィークの《ピアノ協奏曲》と聴き比べると、ここではピアノの役割の違いが明確である。《ピアノ協奏曲》において、弦楽器が止んでピアノだけが前面に出る場面が多数用意されていたのに対して、《ピアノ五重奏曲》ではピアノはむしろ弦楽器書法のなかにとりこまれ、弦楽器声部を総体として豊かにする機能を担っている。そのことは、現代のピアノによる演奏でピアノが弦楽器群に対して圧倒的な音量で迫ってくる際には、ほとんどわからない。歴史的ピアノを使うことで、またその特性をよく理解した奏者が演奏することで、二つのジャンルの違いが鮮やかに聴き取られたのである。

西洋音楽史、ピアノ音楽史の重要な断面を垣間見させる演目とともに

に、プログラムの第一曲としてシューマンのピアノ独奏曲《謝肉祭》が演奏され、コンサートの華やかな幕開けとして今回のピアノの響きを聴き手に印象つけた。またアンコールとして、クララ・シューマンの深い思索を湛えるような《協奏曲楽章》が響いた。

「室内楽演奏会3」の主要演目は第一生命ホールでのライブが収録され、二〇〇八年一〇月に発売された「浜松市楽器博物館」レクシオンシリーズ一六 シューマン夫妻の室内楽「LMCD一八六八、詳細については「付録 演奏会記録」の東京公演の項目参照のこと。このCDによって、本演奏会の成果はこれからも発信され続けることになる。

付録1 演奏会記録

クララ&ロベルト・シューマン 愛、輝きと優しさ（小岩信治・平野昭監修「静岡文化芸術大学の室内楽演奏会3」概要

【演奏者】小倉貴久子（フォルテピアノ）、桐山建志（ヴァイオリン）、藤村政芳（ヴァイオリン）、長岡聡季（ヴィオラ）、花崎薫（チェロ）、笠原勝二（コントラバス）

【演目】クララ・ヴィーク（シューマン、一八一九〜九六）、ロベルト・シューマン（一八一〇〜五六）

シューマン《謝肉祭》作品九

ヴィーク《ピアノ協奏曲》イ短調作品七「ドイツ初版に基づく室内楽版」

シューマン《ピアノ五重奏曲》変ホ長調作品四四

【使用楽器】一八一九〜二〇年にヴィーンのグラーフ工房で製作されたとされるフォルテピアノ（歴史的ピアノ）。浜松市楽器博物館蔵

【浜松公演】

・二〇〇八年二月三日（土）一四時 アクトシティ浜松音楽工房ホール（座席数二二〇）

（二二時一五分より 小岩信治のプレトーク）

・主催 静岡文化芸術大学文化・芸術研究センター、浜松市楽器博物館

・後援 ドイツ連邦共和国大使館、静岡県教育委員会、中日新聞東海本社

・来場者数 一般一四二、学生三三、招待児童二二、招待児童同伴者・同伴教員二一、招待一〇。計二〇八（入場券完売）

・報道 『中日新聞』二月二四日朝刊、『静岡新聞』二月二六日朝刊

【東京公演】
・二〇〇八年三月二日（日）一四時 第一生命ホール（座席数七六七）
（二二時一五分より 小岩信治のプレトーク）

・主催 静岡文化芸術大学文化・芸術研究センター、NPOトリトン・アーツ・ネットワーク（TAN）／第一生命ホール

協力 浜松市楽器博物館
後援 ドイツ連邦共和国大使館、静岡県教育委員会

・来場者数 一般二二六、学生四四、招待五四、計三二四。
・報道 『ぶらあほ』二〇〇八年二月号、『ムジカノーヴァ』五月号。

・演奏記録 シューマン《謝肉祭》以外の全演目を収録したCDを発売（浜松市楽器博物館企画・制作、静岡文化芸術大学協力）収録曲はヴィーク《ピアノ協奏曲》、シューマン《ピアノ五重奏曲》、そして

演奏会ではアンコールとして演奏されたクララ・シューマン《協奏曲楽章》（cob）バージョンハウワーによる復元稿、桐山建志によるピ

アノ六重奏編曲)。「浜松市楽器博物館コレクションシリーズ一六
シューマン夫妻の室内楽」LMCD一八六八。

【教育活動】

国際文化学科、芸術文化学科学生(一〜三年生計二三名)の見学・
実習活動

・浜松公演、楽器博物館員の補佐(二〇〇八年二月三日)
・トリトン・アーツ・ネットワークの箕口一美ディレクターとの意見
交換(三月二日)

・東京公演、TANスタッフの補佐(三月二日)
・公演でのピアニストの譜めぐり(二月三日および三月二日、一名
片山泰輔研究室の活動)

・「シューマンコンサートバスツアー」ゼミ所属学生の企画・運営に
より、愛知県の音楽大学で学ぶ学生九人が、楽器博物館見学、芸術
文化学科生との交流会を含む演奏会訪問ツアーに参加。

【昨年度の研究紀要(第七巻)に掲載された室内楽演奏会?報告書
「ベートーヴェンのアンサンブル」への補足事項】

「静岡文化芸術大学の室内楽演奏会? ベートーヴェンのアンサンブ
ル」の主要演目を収録したCDが二種、いずれも二〇〇八年五月に
発売された。

浜松市楽器博物館コレクションシリーズ一四

「ベートーヴェン ピアノ協奏曲第四番 室内楽稿 ワルター・ピアノ
による」(LMCD一八五八)

《交響曲第二番》一長調作品三六「ピアノ三重奏版」

《ピアノ協奏曲第四番》ト短調作品五八「原典資料に基づく室内楽稿」
(H・W・キューネン編)

浜松市楽器博物館コレクションシリーズ一五

「月光/春くワルター・ピアノと弦によるベートーヴェンの輝き」
(LMCD一八五八)

《モーツァルトの〈魔笛〉の主題によるチェロとピアノのための変奏
曲》作品六六

《ヴァイオリン・ソナタ》へ長調作品二四(春)

《ピアノ・ソナタ第八番》八短調作品二三(悲愴)ほか

これらは『毎日新聞』二〇〇八年五月二二日号、『朝日新聞』二〇〇八
年六月二二日号、『音楽現代』二〇〇八年六月号などにおいて高く評
価されている。

The Historical Piano used for SUAC Chamber Music Concert 3

Shinji KOIWA

Department of Art Management, Faculty of Cultural Policy and Management

Akira HIRANO

Department of Art Management, Faculty of Cultural Policy and Management

Makoto NAKAYAMA

Tuner

The historical piano (K-0010) used for the third SUAC Chamber Music Concert Series has been in the possession of the Hamamatsu Museum of Musical Instruments since the museum first opened to the public. This piano is thought to have been made by Conrad Graf around 1819-20.

When the authors of this paper consider the results of their investigation, it is difficult to confirm whether or not Graf is the maker of this instrument. The only evidence supporting the suggestion that he is the maker is the inscription on the nameplate, "Conrad GRAF in Wien"; this in itself is insufficient evidence to conclude that Graf actually made the instrument.

However, this instrument should not be hastily written off as a counterfeit. It seems most appropriate, given that Graf's participation remains unconfirmed, to label this fortepiano as an "Alleged Graf".